

## 平成 30 年度 第 3 回防災勉強会・第 13 回 IDPT 会議 (議事録)

開催日時：平成 30 年 10 月 6 日(土) 午後 4 時 00 分～6 時 30 分

勉強会 午後 4 時～5 時 50 分 IDPT 会議 午後 5 時 50 分～6 時 30 分

場所：高尾台町会 会館 1 階

出席者：計 13 名

川原利治	大場康子	清水義博	清水恵子	谷内完予	永山順一	長谷川玲子
橋場健次	天野正英	河原美枝子	山原伸二	毛利房雄	竹内陽子	

記録者：清水

### ◆ 勉強会内容

講師：清水義博 (防災士：知るチーム)・谷内完予 (つくるチーム)・永山順一 (防災士：つくるチーム)

内容：テーマ「情報共有から具体的行動へ」 勉強会資料参照

- ・6 月 11 日～30 日の期間にて町会各世帯に対し班長さんの協力を得て実施したアンケート結果を共有し、見えて来た課題に対する具体的な行動を考えることをテーマとして開催しました。
- ・9 月 30 日開催予定の今回の IDPT 勉強会並びに会議は、台風 24 号金沢市通過にともない中止措置を取り、10 月 6 日の開催となりました。
- ・冒頭の情報共有では、9 月 4 日、大型の台風 21 号金沢市通過、お昼 12 時 34 分に全市に避難準備勧告、更に 15 時 30 分には避難勧告が出されるという初めての経験に遭遇したことに触れ、伏見台小学校が避難所として開設される等々、高尾台町会が初めて直面した対応にどう対処したか、どう悩み、考えたかそれぞの経験を共有しました。
- ・更に、台風 21 号の後 9 月 16 日には伏見台防災会「4 町会合同避難訓練」が行われ、高尾台町会としても協力をし、住民の皆さんにも多数参加頂いたことにも触れ、高尾台町会の防災士 (5 名) が防災士コーナーを担当し協力した内容と共に、学ぶことが出来た点を共有しました。
- ・防災士コーナーは、見学の中から外して頂きフリーコーナーと位置づけ情報チラシを提供し、椅子に座って休憩頂き危険に対する不安や知りたい情報を対話して共有する休憩コーナと考えていました。しかし、実際には、他の見学コーナーと同様と思われたのかチラシをもらって、椅子にすわりスライドを眺めて頂くに留まり、チラシコーナーで対面にて応対する場面はつくれませんでした。只、チラシは皆さん積極的に入手する姿勢が見られ、情報を得たいとのニーズがあることは認識出来ました。
- ・しかし、川合町会長が高尾台町会全戸配布された「ぼうさい金沢」も高尾台の皆さんのが積極的に持つていかれた事から、配布されたもの見ておられないのか？表紙の色が青から茶に変わったので新たに刊行された冊子だと思われたのか？用意した部数は全て消えました。
- ・アンケート結果は、①家屋耐震性不安 (平成 5 6 年以前に建築された家屋)、②家具転倒防止実施率、③火災報知器設置率、④調査協力度 (回収率=防災意識・関心度)、⑤高齢化率 (丁目年齢別回答総人口に占める 65 歳以上の人口：金沢市平均 25 %)、⑥防災士の人数、⑦IDPT メンバーの人数、⑧身近なリスク情報並びに意見の 8 項目に関して共有し、防災力強化策を考えて頂く基本情報としました。
- ・情報共有の後半では、リスク情報を 1 枚のマップにまとめた「防災マップ (谷内さん作成)」説明を作成者の谷内さんが行い、最後に永山氏から活動を活性化する上での「安全・安心なまちづくりのしくみ」のあり方に関し理論的な要因分析を踏まえ、現状の地域を社会学から分析し、どのような推進体制が必要か、指摘がなされ具体的な高尾台町会の「しくみ」のヒントが提示されました。

## ◆IDPT 会議内容

審議事項 :

1. 「第4回向う三軒両隣り防災懇談会」役割分担の件 会議資料参照

(1) 実施日 : 平成30年10月21日 (日)

防災勉強会 : 16時00分~17時20分

防災懇談会 : 17時30分~19時30分 (お弁当・お飲み物を準備)

(2) 対象者 : 1丁目(12) + 2丁目(12) + 3丁目(6) 班長30名さま全員

(3) 次 第 :

情報共有 : 16時00分~17時20分

1. IDPT 伝えるチーム 橋場健次氏 ご挨拶 (3分)

2. 出席者紹介 司会者 伝えるチーム (5分)

3. 防災アンケート結果「概略」説明 IDPT 知るチーム 清水義博氏 (12分)

4. 防災アンケート結果「防災マップ」説明 IDPT つくるチーム 谷内完予氏 (20分)

5. 「安全・安心なまちづくり」提案&意見交換 IDPT つくるチーム 永山順一氏 (30分)

懇談会 : 17時30分~19時15分

6. 懇談・懇親

役割分担表 :

役割No.	役割と担当チーム	役割説明
役割担当1	出席者の集約・確定 (知るチーム)	1. 開催案内の配布・回収 2. 決定した人数を「伝えるチーム」「つくるチーム」へ連絡
役割担当5	会場係 (知るチーム)	1. 設営・撤収(全員で行いますが指示・統括下さい) 2. 意見交換並びに意見発表時のワイヤレスマイク(2本)担当 3. 懇談会での飲み物お代わり・小袋つまみ・ティフル布巾等
役割担当2	「情報の共有」並びに「提案」発表者 (清水・谷内・永山)	1. 担当した情報の発表 2. 当日配布資料の作成→つくるチーム責任者(永山順一氏)に事前提供
役割担当6	Table責任者 (つくるチーム)	1. 知るチームから確定した出席者名簿をもらい、Table着席表の作成、「伝えるチーム」からTable書記&発表者を指名 2. 共有情報発表者から提供された原稿にて当日配布資料作成&人数分のコピー準備 3. Tableでの意見交換のリード・進行・集約
役割担当8	報告書作成・提出 (つくるチーム)	1. 懇談会議事録とTable単位の意見メモを元に「第4回向こう三軒両隣会報告書」をまとめ 2. まとめた原稿をメール添付にて永山・清水に提出する
役割担当3	買い物出し・手配・会計 (伝えるチーム)	1. 芝寿しサンピア店(245-7577)幕の内(864円) +配布用ビニール袋の手配 2. 飲み物(缶ビール350ml×60本+清涼飲料350ml×ペットボトル70本) 事前購入し会館冷蔵庫に「向こう三軒用」と明記して冷やしておく 3. プラコップ・氷キューブ・小袋つまみ 4. 仮払い予算60,000円
役割担当4	受付 (伝えるチーム)	1. 事前に出席者の名札の準備(IDPTメンバーは各自持参) 2. 受付にて出席者のチェック及び資料+お茶+名札 配布
役割担当7	Table意見 書記&発表(各Table 伝えるチーム)	1. Tableで出された意見メモを作成する 2. メモ内容をキーワード3つにまとめ、Table代表として懇談会の最後に発表する 3. メモ並びに発表原稿を報告書担当者に提出する
役割担当9	司会・進行 (伝えるチーム)	1. 情報共有&意見交換の司会・進行: タイムキーパーに務めスムーズな進行を誘導する 2. 懇親会の司会・進行: 各Tableでの発表も含め和やかな雰囲気づくりを心がける

2.次回開催予定 : 第4回防災勉強会並びに第14回IDPT会議

平成30年11月18日 (日) 16:00から18:00

以上

# 生きた自主防災高尾台

Independent Disaster Prevention Takaodai

## 第13回会議

平成30年(2018年)10月6日(土)

会議:17時00分~18時00分

◆審議事項 :

1. 「第4回向う三軒両隣防災懇談会」役割分担

第4回懇談会の目的:

防災アンケートの結果を共有し、町会内の危険箇所、十分とは言えない家庭の備え、要支援者の存在を知り、具体的な安全・安心なまちづくりのしくみを班長の皆さん、民生委員の皆さん、町会副会長・役員の皆さんと考えます

(参考資料)

- ①班長の皆さんへのご案内
- ②民生児童委員の皆さんへのご案内

## ◆班長様宛案内：

高尾台町会 班長 各位

平成 30 年 9 月 30 日 (日)

高尾台町会自主防災会平成 30 年度事業 第 4 回「向こう 3 軒両隣防災懇談会」

「みんなで考える安全・安心なまちづくり」

ご案内並びに参加お願い

高尾台町会自主防災会々長 (高尾台町会長) 片岡重人

班長の皆さまには、第 3 回「向こう 3 軒両隣」防災懇談会にご出席賜り、心から感謝申し上げます。第 3 回では防災は「自助」から、向こう 3 軒両隣、家族で助け合い自らの命を守ることが出来なければ助けの側になれないことを学び具体的な自助について話し合いました。

第 4 回では、その後班長の皆さまにご協力賜り実施した防災アンケートの結果を共有し、町会内の危険箇所、十分とは言えない家庭の備え、要支援者の存在を知り、具体的な安全・安心なまちづくりのしくみを班長の皆さま、民生委員の皆さま、町会副会長・役員の皆さまと考える内容で開催致します。ご出席賜りたくご案内申し上げます。

班長様ご自身のご都合が悪い場合は、代理の方に出席賜りたくご配慮をお願い申し上げます。尚、本ご案内下段の出席確認に記入頂き 10 月 15 日 (月) までに高尾台町会会館ポストに投函頂きたくお願い申し上げます。

記

(1) 実施日：平成 30 年 10 月 21 日 (日)

防災勉強会：16 時 00 分～17 時 20 分

防災懇談会：17 時 30 分～19 時 30 分 (お弁当・お飲み物を準備します)

(2) 対象者：1 丁目 (12) + 2 丁目 (12) + 3 丁目 (6) 班長 30 名さま全員

(3) 次：

情報共有：16 時 00 分～17 時 20 分

1. IDPT 伝えるチーム 橋場健次氏 (3 分)

2. 出席者紹介 司会者 伝えるチーム (5 分)

3. 防災アンケート結果「概略」説明 IDPT 知るチーム 清水義博氏 (12 分)

4. 防災アンケート結果「防災マップ」説明 IDPT つくるチーム 谷内完予氏 (20 分)

5. 「安全・安心なまちづくり」提案 & 意見交換 IDPT つくるチーム 永山順一氏 (30 分)

懇談会：17 時 30 分～19 時 15 分

6. 懇談・懇親

## ◆民生委員様宛案内：

高尾台町会

民生児童委員 ○○○○ 様

高尾台町会自主防災会平成 30 年度事業 第 4 回「向こう 3 軒両隣防災懇談会」

「みんなで考える安全・安心なまちづくり」ご案内

平成 30 年 10 月 1 日 (月)

高尾台町会自主防災会 清水義博

拝啓 いつも大変お世話になっております。心から感謝申し上げます。

過日、お電話にてご出席をお願い致しました掲題の件ご案内をお持ちしました。ご出席のほど何とぞ宜しくお願い申し上げます。

第 4 回は第 3 回に引き続き班長の皆さまを対象に開催させて頂きます。第 3 回では防災は「自助」から、向こう 3 軒両隣、家族で助け合い自らの命を守ることが出来なければ助けの側になれないことを学び具体的な自助について話し合いました。

第 4 回では、その後班長の皆さまにご協力賜り実施した防災アンケートの結果を共有し、町会内の危険箇所、十分とは言えない家庭の備え、要支援者の存在を知り、具体的な安全・安心なまちづくりのしくみを班長の皆さま、民生委員の皆さま、町会副会長・役員の皆さまと考える内容で開催致します。ご出席の上ご教示賜りたくご案内申し上げます。

尚、当面は下記の通り勉強会と懇談会の二部構成で実施します。第二部の懇談会では、お弁当とお飲み物 (ビール・お茶・ジュース類) にて親しく懇談し意見交換をさせて頂くべく、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

敬具

記 (1) 実施日：平成 30 年 10 月 21 日 (日)

防災勉強会：16 時 00 分～17 時 20 分

防災懇談会：17 時 30 分～19 時 30 分 (お弁当・お飲み物を準備します)

(2) 対象者：1 丁目 (12) + 2 丁目 (12) + 3 丁目 (6) 班長 30 名さま全員

(3) 次：

情報共有：16 時 00 分～17 時 20 分

1. IDPT 伝えるチーム 橋場健次氏 ご挨拶 (3 分)

2. 出席者紹介 司会者 伝えるチーム (5 分)

3. 防災アンケート結果「概略」説明 IDPT 知るチーム 清水義博氏 (12 分)

4. 防災アンケート結果「防災マップ」説明 IDPT つくるチーム 谷内完予氏 (20 分)

5. 「安全・安心なまちづくり」提案 & 意見交換 IDPT つくるチーム 永山順一氏 (30 分)

懇談会：17 時 30 分～19 時 15 分

6. 懇談・懇親

(連絡先) 高尾台 3 丁目 127 番地 清水義博 電話：076-296-2477 携帯：090-2123-0716

## 第4回向こう3軒進行次第

会長+副会長IDPTメンバーは、15時15分に会館集合→会場及び受付の設営を行います。

15時30分～ 受付開始(受付担当者:伝えるチーム16時00分～16時03分 司会・進行(伝えるチーム)

開会挨拶(IDPT 伝えるチーム 橋場健次氏)

16時03分～16時08分 司会者より参加者の紹介と流れの説明(班長を含め全員が高尾台町会防災会メンバーであることを認識頂いてから勉強会開始)

16時08分～16時20分 防災アンケート結果「概略」説明 (IDPT 知るチーム 清水義博)パワー・ポイント使用

16時20分～16時40分 防災アンケート結果「防災マップ」説明 (IDPT つくるチーム 谷内完予氏)

16時40分～17時20分 「安全・安心なまちづくり」提案 & 意見交換 (説明 & 進行役 IDPT つくるチーム 永山順一氏)

17時20分～17時30分 懇談会準備(Tableセット・飲み物コーナー・コップ・弁当等配布)

17時30分～17時33分 司会・進行(伝えるチーム)・挨拶＆乾杯(IDPT 伝えるチーム 山原伸二氏)・懇談(90分)

基本単位の班の適正規模?要支援者への支援は近所が?情報を得るしくみづくり?

防災と民生委員の連携?家具固定等のしくみづくり?

18時45分～19時10分 各Table発表(発表3分+質疑2分)

19時10分～19時15分 総括挨拶(防災会会长 片岡重人氏)19時10分～19時15分 防災会会长閉会挨拶

19時15分～19時30分 全員で後片付け・ゴミは分担して持ち帰り

役割No.	役割と担当チーム	役割説明
役割担当1	出席者の集約・確定 (知るチーム)	1. 開催案内の配布・回収 2. 決定した人数を「伝えるチーム」・「つくるチーム」へ連絡
役割担当5	会場係 (知るチーム)	1. 設営・撤収(全員で行いますが指示・統括下さい) 2. 意見交換並びに意見発表時のワイエレスマイク(2本)担当 3. 懇談会での飲み物お代わり・小袋つまみ・テーブル布巾等
役割担当2	「情報の共有」並びに「提案」発表者 (清水・谷内・永山)	1. 担当した情報の発表 2. 当日配布資料の作成→つくるチーム責任者(永山順一氏)に事前提供
役割担当6	Table責任者 (つくるチーム)	1. 知るチームから確定した出席者名簿をもらい、Table着席表の作成、「伝えるチーム」からTable書記＆発表者を指名 2. 共有情報発表者から提供された原稿にて当日配布資料作成＆人数分のコピー準備 3. Tableでの意見交換のリード・進行・集約
	報告書作成・提出 (つくるチーム)	1. 懇談会議事録とTable単位の意見メモを元に「第4回向こう三軒両隣会報告書」をまとめる 2. まとめた原稿をメール添付にて永山・清水に提出する
役割担当3	買い出し・手配・会計 (伝えるチーム)	1. 芝寿しサンピア店(245-7577)幕の内(864円) +配布用ビニール袋の手配 2. 飲み物(缶ビール350ml×60本+清涼飲料350mlペットボトル70本) 事前購入し会館冷蔵庫に「向こう三軒用」と明記して冷やしておく 3. プラコップ・氷キューブ・小袋つまみ 4. 仮払い予算60,000円
役割担当4	受付 (伝えるチーム)	1. 事前に出席者の名札の準備(IDPTメンバーは各自持参) 2. 受付にて出席者のチェック及び資料+お茶+名札 配布
役割担当7	Table意見 書記＆発表(各Table 伝えるチーム)	1. Tableで出された意見メモを作成する 2. メモ内容をキーワード3つにまとめ、Table代表として懇談会の最後に発表する 3. メモ並びに発表原稿を報告書担当者に提出する
役割担当9	司会・進行 (伝えるチーム)	1. 情報共有＆意見交換の司会・進行: タイムキーパーに務めスムーズな進行を誘導する 2. 懇親会の司会・進行: 各Tableでの発表も含め和やかな雰囲気づくりを心がける

# 生きた自主防災高尾台

Independent Disaster Prevention Takaodai

## 第3回勉強会

### 「情報共有から具体的行動へ」

平成30年(2018年)10月6日(土)

16時00分～17時00分

講師：清水義博(防災士：知るチーム)・谷内完予(つくるチーム)

1

第3回のテーマは？

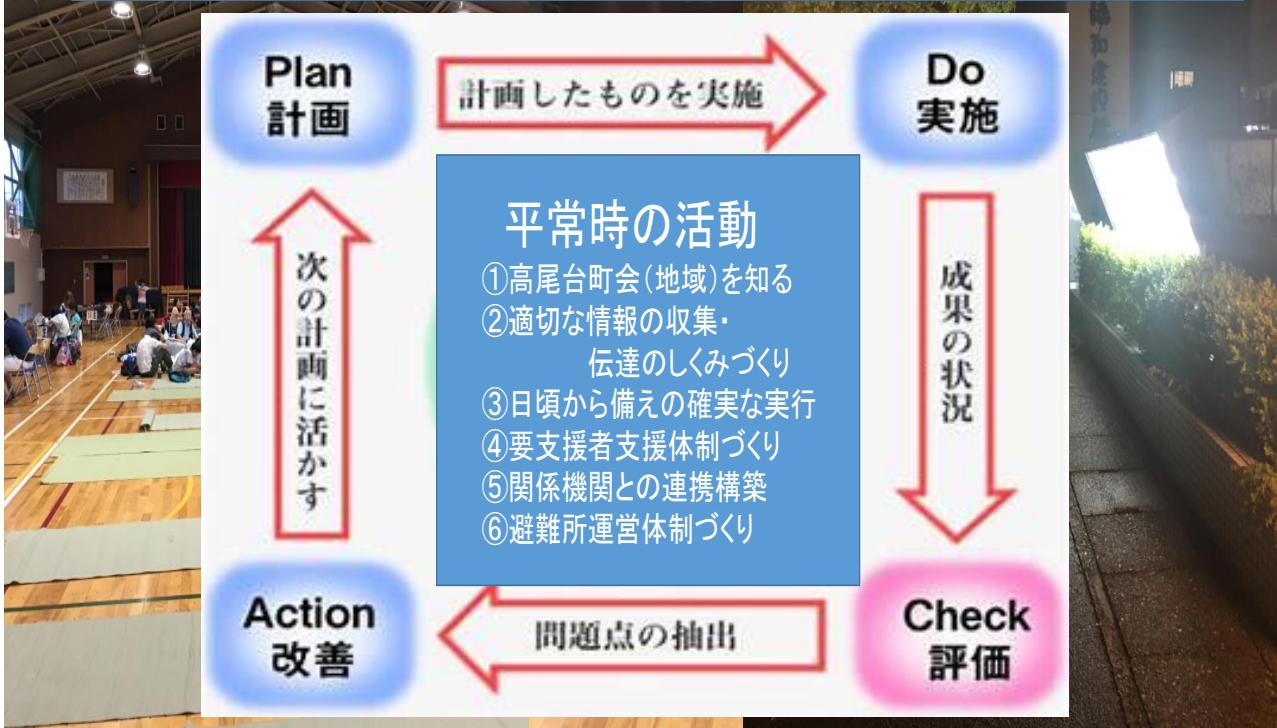


行動しなければ  
何も変わらない

第3回では  
出席者全員で情報を共有し  
出席者全員で考え  
具体的な行動・施策に  
結びつけたいと考えました

[ここに入力]

# 平常時“いざという時”の行動を考え、準備していないと 迅速な避難行動の一歩を踏み出せない



## 情報共有を踏まえ具体的な行動を考える

高尾台1丁目										
防災士	IDPT	世帯数	回答世帯数	回収率	高齢化率	回答者年齢	耐震不安	転倒防止		
1-1班	0	0	8	7	88%	57%	23	14%	43%	100%
1-2班	0	1	9	9	100%	32%	31	0%	22%	78%
2班	0	1	28	18	64%	21%	47	6%	44%	61%
3班	0	0	20	11	55%	25%	28	0%	55%	73%
4班	0	0	26	15	58%	37%	38	0%	20%	73%
5班	0	1	21	9	43%	36%	28	0%	44%	78%
6班	1	1	27	27	100%	26%	85	0%	44%	78%
7-1班	0	0	29	29	100%	12%	89	0%	38%	97%
7-2班	0	2	15	14	93%	24%	37	0%	50%	86%
8班	0	1	34	16	47%	28%	47	0%	58%	63%
9班	0	1	44	28	64%	17%	90	0%	25%	89%
10班	1	0	19	19	100%	41%	41	0%	25%	79%
1丁目全体	2	8	280	202	72%	26%	584	1%	39%	80%

高尾台2丁目										
防災士	IDPT	世帯数	回答世帯数	回収率	高齢化率	回答者年齢	耐震不安	転倒防止		
1-1班	0	0	14	10	71%	35%	26	10%	50%	90%
2班	0	0	13	12	92%	35%	34	0%	42%	92%
3班	0	2	32	15	47%	15%	40	0%	40%	87%
4班	0	0	11	8	73%	19%	26	4%	38%	88%
5班	0	2	17	15	88%	24%	34	0%	13%	67%
6班	0	0	37	17	46%	18%	56	0%	41%	82%
7班	0	1	22	12	55%	28%	36	0%	25%	92%
8班	0	1	20	18	90%	30%	47	0%	44%	89%
9班	0	1	27	16	59%	30%	43	0%	19%	69%
10班	0	0	10	7	70%	50%	16	0%	6%	44%
11班	0	0	11	11	100%	23%	30	0%	38%	73%
2丁目全体	0	7	214	141	66%	26%	388	1%	33%	83%

高尾台3丁目										
防災士	IDPT	世帯数	回答世帯数	回収率	高齢化率	回答者年齢	耐震不安	転倒防止		
1-1班	1	1	31	24	77%	18%	72	0%	33%	79%
1-2班	0	1	33	18	55%	17%	48	0%	33%	78%
2-1班	0	0	31	25	81%	13%	87	0%	40%	84%
2-2班	0	2	18	11	61%	2%	42	0%	45%	82%
2-3班	0	1	31	23	74%	20%	64	0%	35%	83%
3班	4	6	24	100%	19%	73	0%	24%	64%	
3丁目全体	5	11	168	125	74%	16%	386	0%	34%	78%

[ここに入力]

高尾台全体										
防災士	IDPT	世帯数	回答世帯数	回収率	高齢化率	回答者年齢	耐震不安	転倒防止		
高尾台全体	7	26	662	468	71%	23%	1358	4軒	35%	81%

**防災体制(強化案)**

- (1)町会活動に平常時の防災活動を組み入れる(小集団ユニットを組み込む)
- (2)防災士を増やす取り組みの継続・最低1名/班(現在7名)
- (3)IDPTメンバーの募集を継続する(最低3名/班)

**次年度取り組み実行(案)**

- (1)防災意識向上・アンケート実施継続・家庭会議実施促進→P-D-C-Aを回すくみの構築
- (2)要支援への取組:1人暮らし高齢者宅転倒防止策支援→民生委員と自主防災会連携事業(山原氏来)
- (3)耐震化相談会の実施(協力者:金沢市建築指導課)

町会長	1丁目班 班長 町会副会長	2丁目班 班長 町会副会長	3丁目班 班長 町会副会長
	向こう3軒 防災ユニット	向こう3軒 防災ユニット	向こう3軒 防災ユニット

## 2019年(平成の次の年元年)新たな出発を



### 防災体制(強化案)

- (1)町会活動に平常時の防災活動を組み入れる(小集団ユニットを組み込む)
- (2)防災士を増やす取り組みの継続:最低1名/班(現在7名)
- (3)IDPTメンバーの募集を継続する(最低3名/班)

### 次年度取り組み実行(案)

- (1)防災意識向上:アンケート実施継続・家庭会議実施促進→P-D-C-Aを回すしくみの構築
- (2)要支援への取組:1人暮らし高齢者宅転倒防止策支援→民生委員と自主防災会連携事業(山原氏案)
- (3)耐震化相談会の実施(協力者:金沢市建築指導課)

## 家具転倒防止策支援(山原氏案)の実行

(1)対象:一人暮らし高齢者住宅

(2)方策実行手順:

- ①高尾台町会1丁目、2丁目、3丁目には各々1名づつの民生委員が配置され  
定期的に一人暮らし高齢者宅(現在:7カ所)を巡回し安否確認に努めています
- ②その際、家具等の転倒防止策を講じているか必要性も含め確認してもらい周知する
- ③周知結果をまとめ自主防災会(責任者:片岡会長)に報告
- ④報告を受け自主防災会各丁目班(責任者:各丁目副会長)にて防止策に必要な措置・  
器具・取付方法・金額等をIDPT知るチームの協力を得て作成する
- ⑤実行(案)をIDPT会議にて民生委員の皆さまの意見を取り入れて完成させる
- ⑥各防災班々長(各町会副会長)、町会班長、民生委員とIDPT伝えるチームが協働し  
ご本人と日程調整の上高齢者宅を訪問し家具転倒防止策の必要性を説明し理解頂く
- ⑦理解頂いた先に民生委員とともに防災会丁目班が訪問し転倒防止策を講じる

[ここに入力]

# 耐震化相談勉強会の実行

アンケートでは昭和56年以前建築の住宅は2~4棟存在しました  
只、それ以降建築の住宅でも「大丈夫なのか？」皆さん不安を感じておられます

## 住宅、建築物の耐震化の状況と支援制度の概要



### 耐震化の状況

昭和56年の耐震基準を満たさない建築物について、改修・建替えにより耐震化を促進

#### 住宅の耐震化

H10	約68%	▶	H15	約75%	▶	H20	約79%	▶	目標(H32)	95%
-----	------	---	-----	------	---	-----	------	---	---------	-----

※新成長戦略  
(H22.6.18閣議決定)

#### 特定建築物の耐震化

※特定建築物：学校、病院、百貨店等の多数の者が利用する一定規模以上の建築物

H15	約75%
-----	------

H20	約80%
-----	------

目標(H27)	90%
---------	-----

※地震防災戦略  
(H17中央防災会議)

[ここに入力]

# 生きた自主防災高尾台

Independent Disaster Prevention Takaodai

## 『安全・安心なまちづくりのしくみ』 提 案

平成30年（2018年）10月6日（土）

提案者：永山 順一（防災士）

# I 『安全・安心なまちづくり』

「安全」とは、客観的にみて危険や危害の生じるおそれのないこと  
↓  
物理的要因

「安心」とは、主観的な心のあり様として不安のないこと  
↓  
心理的要因

安全・安心を考えると「安心にはきりがないし、安全には100%はない」

安全と安心という2つの要素があるときに、以下のパターンが考えられる。

- ① 安全は確保されるが、安心は確保されない。 ⇒中途半端なパターン！ 従来の防災訓練？
- ② 安全は確保されないが、安心は確保される。 ⇒皆無に近いパターン！ 思考錯誤？
- ③ 安全も安心も確保されない。 ⇒最悪のパターン！ 何ら対応なし？
- ④ 安全も安心も確保される。 ⇒理想のパターン！ 現実性なし？

低限必要となるのは、安心が確保される程度の安全。  
言い換えれば、 安心が確保されることが重要。

全員の安心を追及するのは際限がないが  
高尾台町会としての「安心の確保」の相場はありうるのでは！

※ 「安全」を確保しなければ、「安心」は確保できない !!

(物理的要因)

(心理的要因)

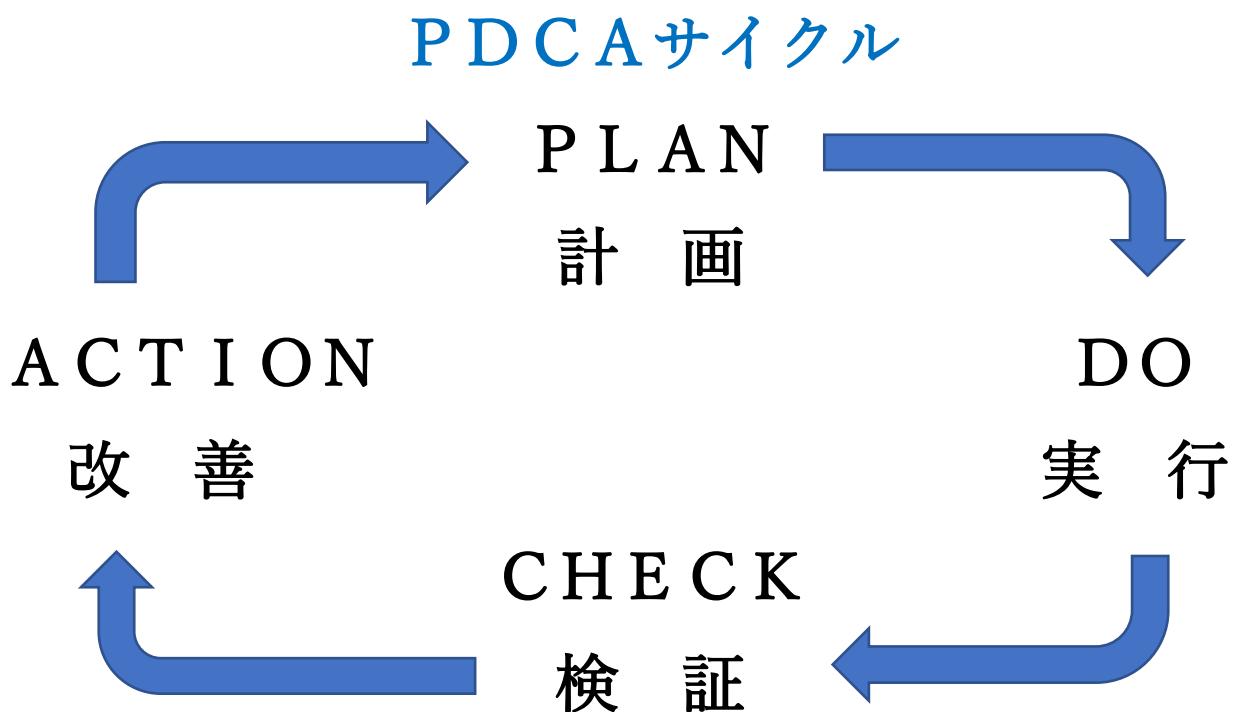
※ 高尾台町会の「安心」の確保を皆さんで討議しよう！

## ◎ 防災活動は、心理的要因を醸成しなければ、 物理的要因を効果的に構築できない。

- ・心理的要因・・・防災意識（自分の命は自分で守る）  
(明日災害が発生するかもしれない)
- ・物理的要因・・・備え（自助・近助・共助・公助）  
(事前・災害時・災害後)

## ◎ 『防災意識』を高め『備え』を充実させるには！

PDCA（プラン・ドゥ・チェック・アクション）サイクルを回し続ける！



長期的に、継続的に、取り組むしくみ

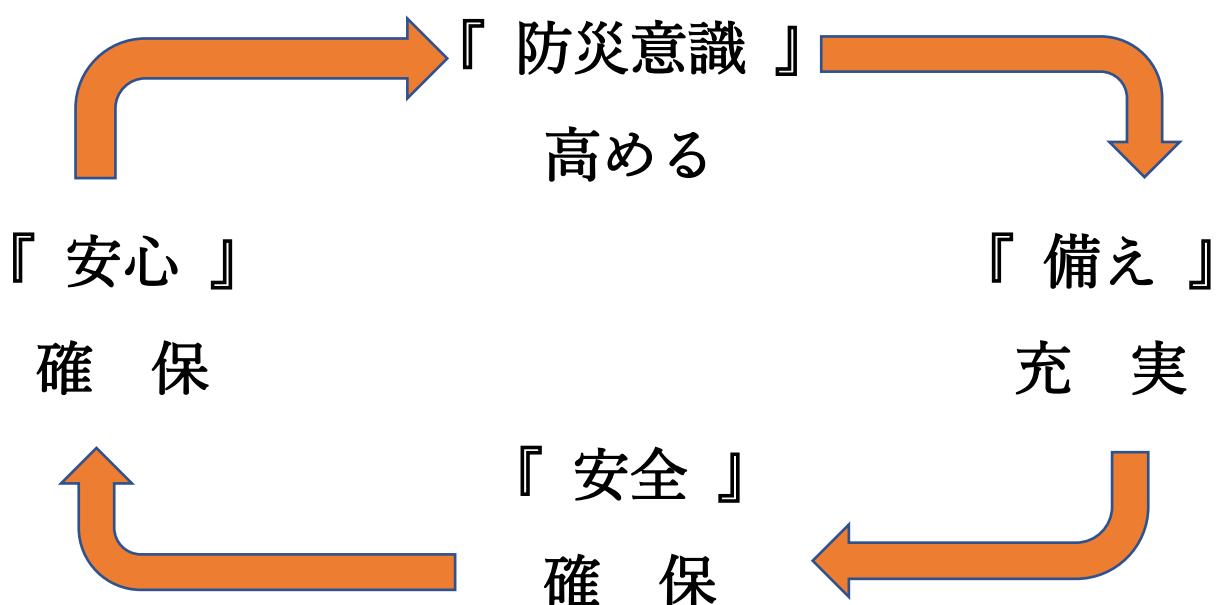
「安全」「安心」の確保つながる！

◎ 心理的要因・・・『防災意識』 『安心』

◎ 物理的要因・・・『備え』 『安全』

それぞれの要因でレベルアップを図る

相乗効果が期待できる



「安全安心社会」という目標地点（ビジョン）を考えずしては、ゴールテープのないマラソンをむやみやたらと走るようなものであり、対症療法的な安全・安心問題対策の実施によって参加する者がマンネリ化してしまう。つまり、目標がなければ達成は不可能。

安全・安心な暮らしを実現する

⇒ 住みやすい高尾台町会の実現

目標：築こう！安全・安心な「高尾台町会」

## II 『安全・安心なまちづくり』のあり方に関する論点

高尾台町会の皆さんと結びうる形、組織的な形で災害時等の対応を目指した活動を実施すると！

### ● 期待される効果

- ・地域において連帯を作り出す。
- ・広く持たれる信頼関係が円滑な社会運営に寄与する。
- ・災害時・緊急時は、地域における共助しか方法がない状況に対応できる。
- ・被災後の回復力に影響する。
- ・リスクを共有する地盤となる。

### ● 注意点・短所

- ・これまでの自助・共助・公助では、コミュニティの希薄化により、長期的に、継続的に、できなくなる。
- ・地域の安全・安心を地域で確保するということを強調しすぎると、強制的な雰囲気のなかで活動が展開されてしまう。

### ● 必要事項 安全・安心の確保のためのしくみがうまく動いていくためには、**全員参加の討議が重要**。

- ・安全・安心を求める高尾台町会の皆さまの意識や価値観を理解しようとする論議。
- ・高尾台町会が何を追求していくのかという議論。

## 要点：コミュニティの構築・再生！

近年、コミュニティの希薄化が取り上げられており、多くの人が希薄化していることを感じている。

コミュニティは、伝統であったり、文化であったり、人々の日常的なつきあいによって培われる！

地域に伝わる歴史や文化、既存の活動や施設など今ある地域資源を大限活用する！

コミュニケーションの醸成 顔の見えるおつきあいの場を確保する！

**災害直後の対応には、コミュニティの人々で支えあう共助しかないと  
コミュニティにおける共助の力、地域力が必要不可欠。**

コミュニティが脆弱であれば、次のような状況に陥る。

災害が突然開始され、社会生活に深刻な混乱が引き起こされる。

混乱に対応するために計画外の対応、及び、予期せざる生活体験を強いられる。

価値ある社会事象が危機にさらされる事態に直面する。

**コミュニティが地域力を持っている場合は**

**より災害を回避し、より早い回復を達成することができる！**

## 以前の地域コミュニティ（結束型：強いつながり）

人々は土地に根付き、物理的環境を共有することから、緩やかなつながりよりも強いつながりが形成されうる状態にある。（長期間を経て形成されている）

災害時要援護者支援の対策においては、

しばしば個人情報保護問題で地域での情報共有が困難になり易い状況である。  
強いつながりのある地域では、既にご近所の詳細について十分に把握している。

法的な枠組みで縛られ、克服する必要がある部分に関しても、自分たちでの別の対応が可能となっている。

情報が伝わっているというだけでなく、近所の人が頼りになるという意識も日常的なつながりによって正の影響をもつようになる。

↓  
理想的な状態

今後、このようなコミュニティの構築することは、困難！

そこでまず重要な点は

- ① コミュニティが現在持っている状態を崩さないようにする
- ② いかに崩さないようにして向上するかを検討する

コミュニケーションのあり方として、長期的な信頼関係を構築していく！

- ① 繰り返しコミュニケーションを行うこと
- ② ネガティブな情報でさえも瞬時に出すような正直な対応も必要
- ③ できる限りその場で回答するということが重要

昔ながらの連帯は想定できないので、新しい形の連帯が必要！

橋渡し型の緩やかなつながり！

現代的な形でコミュニティを再構築する際には、橋渡し型のつながりを念頭に置く。  
(橋渡し型というのは、異なる組織間における異質な人や組織を結び付けるネットワーク)

橋渡し型のコミュニティで機能する  
『安全・安心なまちづくり』のしくみを検討する！

### III 「安全・安心なまちづくり」の推進

⇒ 誰が行うのか？ (主体は誰なのか？)

- ① 行政 ・・・ 日本国、石川県、金沢市
- ② 地域 ・・・ 伏見台校下、学校、事業所  
高尾台町会、班
- ③ 住民 ・・・ 向こう三軒両隣、家族、個人

行政・地域・住民が**十分なリスク情報**に基づく

- ① 危機意識 と ② 対応策 を持つて推進する

#### リスクコミュニケーション

社会を取り巻くリスクに関する**正確な情報**を、行政、専門家、企業、市民などの**関係主体間で共有**し、**相互に意思疎通**を図ることをいう。合意形成のひとつ。

リスク・コミュニケーションを成功へと導くための 6 つの要点

- ① リスク、リスク分析、リスク管理について  
人々をよりよく教育すること
- ② 特定のリスクについて、またはそれらを低減するための行動について、  
人々に十分知らせること
- ③ 個人的なリスクを低減する手段を人々に奨励すること
- ④ 人々が持っている価値や関心についてよりよく理解すること
- ⑤ 相互の信頼と信憑性を促進すること
- ⑥ 葛藤や論争を解決すること

# IV 『安全・安心なまちづくり』のしくみ

## ● 推進主体

高尾台町会 = 高尾台自主防災会 ≫ 班 ≫ 向こう三軒 ≫ 町会員  
↓  
I D P I (スタッフ組織) = 「知る」「つくる」「伝える」チーム

## ● 会議体

高尾台町会 定例総会 役員会 役員班長連絡会  
自主防災会 定例総会 實行委員会 向こう三軒両隣懇談会 I D P T会議

## ● 推進方法

P D C A (プラン・ドゥ・チェック・アクション) サイクルを回し続ける！

## 安全・安心なまちづくりのためには (条件)

- ・行政・地域・住民が十分なリスク情報に基づく  
①危機意識と②対応策を持つことが必要
- ・緊急時はもとより平時から、自助・共助が重要
- ・自助・共助・公助を含め、平時と緊急時を横断する形で準備されるべき  
①災害予防と②災害応急対応を取り組むことが重要

## 安全・安心なまちづくりの二つの柱

### ① 「十分なリスク情報の活用」によるまちづくり

平時に「十分なリスク情報」を共有することが、①危機意識と②対応策を持ち  
平時、緊急時、復興時を横断する①災害予防と②災害応急対応につながる！

### ② 「多様な手法の組合せ」によるまちづくり

「十分なリスク情報」を共有することにより、多様な個別具体的な手法が  
創造される！

# ① 「十分なリスク情報の活用」によるまちづくり

## 行動指針

- リスク情報は、自らが取りに行き、自らが発信しよう。
- リスク情報を可能な限り集め、町会の皆さんに伝えましょう。
- リスク情報を伝えることにより、「防災意識」を高めよう。

## 具体的な行動

### ① 収集（P）

1) 周辺（社会・行政・地域）

主な主体

内容

会長、役員

十分なリスク情報を集める

2) 内部（町会員）

班長

個別・具体的なリスク情報を集める

### ② 分析・選定・整理（D）

1) 分野別に分けて

主な主体

I D P T (知る)

①震災 ②水害・暴風 ③津波・高潮 ④土砂災害  
⑤火山災害 ⑥雪害 ⑦交通安全 ⑧防犯 ⑨火災

2) 重要度を3段階に分けて

I D P T (つくる)

A : 重要 B : 要注意 C : 注意

3) 訴える優先度を3段階に分けて

I D P T (伝える)

A : 最優先 B : 優先 C : 周知

### ③ 管理・公開（D）

主な主体

1) 一元管理、一覧管理（データベース）

I D P T (つくる)

2) 誰でも、いつでも、

I D P T (伝える)

- ・住民にとってわかりやすく、また、まちづくりにおいて活用しやすい情報として整備
- ・地域の課題をきめ細かに明らかにする

④ 発信・共有・教育 (D)	主な主体	目標
1) コミュニケーション	高尾台町会	各種会議、行事等を利用
2) 顔の見えるおつきあいの場を確保	I D P T、班長	小さなコミュニティを創る
3) リスクを教えて理解してもらう	I D P T、班長	
⑤ 確認・評価・報告 (C)	主な主体	目標
1) ヒアリング、インタビュー (集約が重要)	自主防災会	町会員の意見を聞く
2) アンケート (回答が重要、内容・率)	会長、I D P T (つくる)	町会の実態をつかむ
3) 安全・安心の相場を話し合う	高尾台町会	目標を明かにする
4) リスク情報を報告する	会長、役員	リスクコミュニケーション

## ② 「多様な手法の組合せ」によるまちづくり

### 行動指針

- 平時にできないことは、緊急時にできない。積極的に取り組もう！
- 平時の災害予防策が、緊急時に役に立つ。町会に広めよう。
- すべてのリスクに対応策を立て、「備え」を充実しよう。

### 具体的な行動

① 防災訓練	※ 防災訓練を通じて「問題」「課題」を洗い出す
1) 家族会議	実施の推奨
2) 避難訓練	「逃げる」ことを基本とする防災対策をみんなで考える
3) 避難所運営訓練	開設と同時にスムースに運営できる体制を考える
② 要援護者支援	
1) 要援護者情報	「関係機関共有方式・手上げ方式・同意方式」を活用
2) 援護方法	分野別タイムライン
3) 支援者設定	援護者環境の整備

### ③ 災害情報伝達ルート整備

- ①防災行政無線 ②広報車 ③個別受信機 ④インターネット ⑤携帯電話への防災メール等
- ⑥C A T V やコミュニティ F M ⑦放送機関への依頼

### ④ 防災まちづくり情報マップ作製

- ・住民にとってわかりやすく、また、まちづくりにおいて活用しやすい情報として作成

### ⑤ 備蓄について考える

- ・主体別 ・内容 ・量 ・方法（ローリングストック） ・管理（防災大掃除）

### ⑥ 地震対策

- 1) 家具等固定化推進 2) 住宅耐震化推進 3) 危険箇所の把握 4) 発生時行動確認
- 5) 安否確認方法

### ⑦ 水害暴風対策

- 1) 危険箇所の把握 2) 治水対策 3) タイムライン作成

### ⑧ 土砂災害対策

- 1) 危険箇所の把握 2) タイムライン作成

### ⑨ 火山災害対策

- 1) 事象の把握 2) 発生時行動確認 3) タイムライン作成

### ⑩ 雪害対策

- 1) 事前情報の発信 2) 初期対応 3) 協力対応 4) タイムライン作成

### ⑪ 火災対策

- 1) 防火意識徹底 2) 初期消火・通報 3) 避難

### ⑫ 交通安全

### ⑬ 防犯

参考：都市に何らかのリスクをもたらす可能性のある分野

- ① 震災 …… 森本富樫断層による地震 今後30年間に7%の確率で発生
- ② 水害・暴風 …… 台風・大雨等による局地的発生実績あり
- ③ 津波・高潮 …… 地理的に見舞われる可能性はない
- ④ 土砂災害 …… 土砂災害危険地域を抱えている
- ⑤ 火山災害 …… 白山は活火山
- ⑥ 雪害 …… 2018年初に大雪に見舞われた
- ⑦ 交通安全 …… 交通量の多い幹線道路がある
- ⑧ 防犯 …… 空き巣被害が定期的に報告されている 防犯意識
- ⑨ 火災 …… 出火の可能性はだれにでもある 火の用心

参考：ハザードマップ 金沢市

- ① 防災マップ
- ② 土砂災害避難地図
- ③ 洪水避難避難地図
- ④ 浸水実績区域図
- ⑤ 津波避難地図
- ⑥ 液状化危険度予測図
- ⑦ ため池ハザードマップ（避難地図）

## 提案骨子

「十分なリスク情報の活用」によるまちづくりを展開し

「多様な手法の組合せ」によるまちづくりで備えよう



まずは、ひとまず安心と言える  
「高尾台町会」を目指そう！